



先天(先天)と後天(後天)

Seoncheon and Hucheon

目次

- 1 先天と後天の概念
- 2 東学思想の先天/後天認識
- 3 大巡思想の先天/後天認識
- 4 二つの思想の比較
- 5 結論および示唆点

先天と後天の概念

先 先天(先天)

- ◆ 邵康節によって易学に初めて導入された概念
- ◆ 万物が相克的に運する以前の原理 伏羲八卦
- ◆ 図と河図洛書の宇宙原理と関連 物質が生成される前、太初の秩序を意味

後 後天(後天)

- ◆ 上帝の人身降世を起点とする新たな時代
- ◆ 神明(神明)の役割が再規定される質的転換
- ◆ 点 東学では「天主(天主)」概念と連結
- ◆ 新しい天と新しい地の秩序確立の意味

先天と後天は単なる時間的区分ではなく、人間-宇宙関係の根本的変化を象徴する概念である。東学思想と大巡思想はこの概念を通じて宇宙と人間社会の秩序の再編を説明し、新たな近代性の方向を提示しようとした。

東学思想が見る先天と後天

開 「再開闢(道路先天)」の意味

東学思想において開闢は「道路先天(回到先天)」という意味を持つ「再開闢」として解釈される。

表面的意味

- ◆ しばしば「後天開闢」と解釈されて
- ◆ ^{きた}新たな世界の到来を意味するものとして理
- ◆ ^解東学教の近代的改革思想と見なされる

実際の意味

- ◆ 東学関連宗団の記録は「道路先天」を示唆
- ◆ 儒教的理想社会(堯舜時代)への回帰志向
- ◆ 原点回帰的思想が強く内在

「当時の問題を儒教的観点からのみ見るなら当時の問題に対する最善の解決策は再び堯舜時代に戻る『再開闢』となり得る。」

東学の現実的志向点

- ◆ 「国中皆両班になる」- 身分制度の平等ではなく上層身分へ
- ◆ の同化「王侯将相の夢」- 新たな体制よりは既存体制内で
- ◆ の地位上昇の希望 後天を標榜したが実際には先天秩序の

大巡思想が見る先天と後天

大巡思想は先天を止揚すべき否定的概念ではなく、生長斂蔵の原則に従い後天へ向かうための必須的過程と見る。先天の怨恨は後天の解冤動力となる。

後天の特徴

東西古今の理致の融合

系統発生を反復する個体発生のように東西古今の理致のうち長所のみを集めて構成された世界

三界(三界)の確立

天・地・人三界が可変性、恒常性、互換性を持つ新たな宇宙秩序の形成

上帝概念の実体化

無極神、太乙天上元君を通じた無極と太極の実体化

天界観の再構成

- 上帝としての天と天地神明の二つの概念の確立
- 古き天と新しき天の交替
- 天地公事を通じた冥府公事の実現
- 天象分野列次之図の天文再配列
- 陰陽合徳、三才確立、五行具備の秩序

「後天は東西古今の時空間に現れたすべての理致の融合を意味する。したがって東学思想の造化に現れた東西洋天観・地観・人間観の連結は大巡思想において三界公事を通じた融合にまで発展する。」

両思想の比較と結論

東学

東学思想の後天観

- ◆ 後天を志向するが実際には「道路先天(先天回帰)」を
- ◆ 追求「再開闢」を堯舜時代への回帰と解釈
- ◆ 儒教的観点の理想世界の追求
- ◆ 「全国民が両班となる」→「王侯将相」志向

大巡

大巡思想の後天観

- ◆ 先天は否定ではなく後天へ向かう過程として認識
- ◆ 「新しい天と新しい地」の創造的開闢を追求
- ◆ 東西古今の理致の融合を通じた新たな世界
- ◆ 観陰陽合徳、三界確立、神明再配置

結論および示唆点

1. 近代性へのアプローチの違い東学は過去志向的近代性を、大巡は融合的・創造的近代性を提示した。
2. 世界観の特徴大巡思想は可変性・恒常性・互換性を通じて宇宙と人間の新たな関係を提示する。
3. 現代的意義大巡思想は伝統天観で近代文明の問題を解釈しようとする独自のアプローチで100年余り後の現在まで有意義な解釈を提供する。
4. 東西洋の融合東洋の属性的天観と西洋の実体的天観の合徳を通じて新たな方向性を提示する。